

## はじめに

2011年3月の出来事を思い出してください。東日本大震災時には世界中の多くの国々からの災害支援や医療スタッフが派遣されてきました。また我々も医療班として派遣され、被災した人々の声を聴き、たくさんの思いを心に感じながら、この状況をどうにかしなくてはと思う気持ちで、心の痛みをこらえ被災者のために必死でした。

このときの震災直後、世界中のメディアが伝えたことがあります。駅のプラットフォームやスーパーのレジ前に、文句を言わず整然と長時間順番を待つことができる日本人を「レジリエンスが高い国」と称賛していました。

そのことを受けたのでしょうか、2013年2月安倍内閣が、「ナショナル・レジリエンス」という、キャッチフレーズを掲げました。それは、挫折や困難な状況からのしなやかな回復力を意味します。日本は災害立国です。毎年どこかで災害が起き、それでもしっかり立ち上がり進んできています。

そのようななか、2018年6月に成立した国の方針「働き方改革」。要するに労働時間や働き方を考える時代に入ってきましたが、2019年12月、中国・武漢で最初の感染者が発症したとする新型コロナウイルス（COVID-19）が世界中をパンデミックに陥れ、医療界はこれまで経験したことがない感染症との闘いに明け暮れることになりました。

所属する病院・病棟のスタッフの気持ちを、変化の波に上手に乗れる心持ちになれるように、この時代の流れを生きる我々医療職は、挫折や困難な状況からしなやかに回復していくこと（レジリエンス）を経験しながら、そして看護主任はそのよりどころとしての方法を考えて行く必要があります。

看護主任は中間管理者です。このような時代の流れに翻弄され、何をどのように考えて、スタッフを率いていけばよいのか迷いが多いと思います。看護の質を維持し、個々のストレスを把握しながら、同時に、国が進める働き方改革では、時間外勤務は少なく・十分な休暇をとり、その人らしく生きるあり方を探ることを目指すため、看護師長とともに病棟運営を維持することが必要になっています。

本書では、看護師長予備軍としての看護主任・病棟では中堅クラスであり、スタッフからは頼りになる先輩看護師であり、質問にはいつも丁寧に答えることができる看護主任でありたいと願っている看護主任さんを対象に書いています。日々奮闘している新人看護主任、また、これから看護主任職に挑戦しようとしている中堅クラスの方に、看護主任職とはどのようなことを考え実践していくことを望まれるのかをできる限り現場に即して、すぐ参考になり実践できるように書いております。

- 看護主任は何をする人
- 看護部の組織を知る
- 看護師長の補佐とは、どのようなことを行うのか
- スタッフのロールモデルになるとは、どうすればよいのか
- 看護主任としてのリーダーシップのあり方
- 新人看護主任の学び方の1年
- 病棟スタッフの面談・方法（看護師長と共に）
- 中堅看護師の離職の要因と採用面接時の注意(看護師長と共に)
- 看護主任のキャリアプラン
- スタッフの個性の理解と指導方法
- さまざまなクレーム・トラブル対応のしかた

看護主任さんが実践で困る内容を想像し、実践での出来事を思い出しながら書きました。看護師長と共通の目標をもち実践することにより、病棟管理が上手にいくことを願っています。

本書の取り組みは、株式会社学研ホールディングス参与影山博之氏の助言・サポートを受け、株式会社学研メディカル秀潤社代表取締役社長の小袋朋子氏の援助を受け完成いたしました。またこの間、株式会社学研メディカル秀潤社は組織変更により「株式会社Gakken」としてスタートする真ただ中でありました。そのような中、発行をあきらめず何度となく打ち合わせを行いこの日を迎えることができましたのも、メディカル出版事業部の皆さんの励まし・工夫・アドバイスがあって完成いたしましたこと、感謝いたします。

2023年2月  
古橋 洋子